



海で知る。海を知る。
新しい学びの形を江田島で。

江田島市の特色ある教育

さとうみ学習の推進

江田島市では、郷土への愛着・誇りを持った児童生徒「さとうみっ子」の育成を目指して、市内の全小中学校において、特色のある教育「さとうみ学習」を開発・実践していきます。そして、その成果を共有することで、より一層の教育活動の充実を目指します。

島っ子の特権を教育に。

江田島には、海に関わる豊かな資源が多く、それらは豊かな教育資源となる可能性を持っています。児童生徒がこの町で育ったからこそ受けられた学びがあることを誇りに思えるような、新しい教育の形を作り上げるために、さとうみ学習の実践を行います。

さとうみ学習とは

さとうみ学習
定義
育てたい
人物像

海に関連するヒト・モノ・コトを
資源とした学習活動・体験活動
「さとうみっ子」
未来の里海・故郷を生み出せる人



児童生徒の発達段階をふまえた 学習ステップの設定

STEP 01 觸れる



海が好きで、自分から関心を持って行動する様になるために、まずは直接触れることによる五感を使った体験知を増やす。簡単な遊びを中心とした活動を行う段階。

STEP 02 知る



海を有識者や文献から学ぶとともに、自分で情報を収集し、里海について広く知る。基礎となる知識をつけることで、自分の興味関心がどこにあるかを知る段階。

STEP 03 探る



海についての基礎知識がつくることで、掘り下げたいと思うテーマが見つかっていることを前提に、自分なりの視点で、主体的に研究活動を行う段階。

STEP 04 表現する

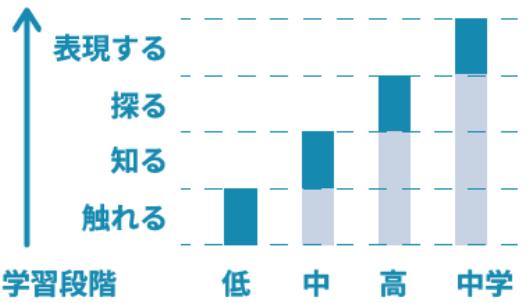


独自の視点で研究した内容を踏まえ、他者に魅力や実態を伝える段階。自分の特技や個性を活かし、既存の表現方法に囚われない表現活動を行っていく。

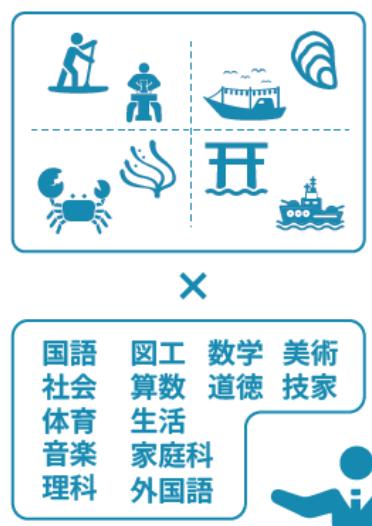
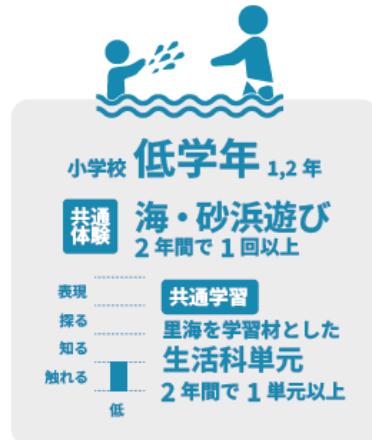
児童生徒の発達段階によって、さとうみ学習の段階は少しづつ高度になっていくよう、学習設計を行っていきます。その中でも、特に重要な点は、児童生徒が「海が好きである」状態になっていることを目指すことです。

この学習のステップでは、児童生徒が主体的に学び、自らの特技や個性を活かして表現することを最終目標としているため、学習活動に対する意欲を持続続けることが必須であると考えます。そのためにも、学年問わず、海に「触れる」ことを通じ、好奇心を高めることを大切にしながら学習を展開していきましょう。

さとうみ学習のステップ



さとうみ学習の学年別展開イメージ



里海素材 × 各教科

里海を教育素材として積極的に扱い、各教科の内容と組み合わせて展開していく。教科ごとの特徴を里海の素材と掛け合わせることで、地域での実態や日常生活と結びついた教科での学習となることを意識する。例えば、社会で江田島の海に関する歴史や産業を扱ったり、図工で海ゴミを活用した工作を行うなどが考えられる。

学校独自の学習活動・体験

各学校によって、学校周辺の地域特性は大きく違う。各学校の里海環境を生かした独自の学習活動や体験活動を、特別活動や行事等の時間を活用し展開していく。



各学校への お願い

- 「さとうみ学習」の取組の共有及び情報発信に向けた実践等の提出
 - ・生活科または総合的な学習の時間における実践事例（各校1事例以上）
 - ・各教科または特別活動における実践事例（各校1事例以上；指定校は2事例以上）

※それぞれにおいて、実践事例に係る学習指導案を作成している場合は、合わせて提出してください。
- 「さとうみ学習」の教育計画への位置付け
 - ・総合的な学習の時間全体計画への「さとうみ学習」の明記
 - ・生活科及び総合的な学習の時間年間指導計画への「さとうみ学習」の明記

教育委員会の取組について

- (1) 地域おこし協力隊「里海コーディネーター」による支援
 - ・各学校における「さとうみ学習」の発信等
 - ・各学校のニーズに対応した地域人材との連携や地域資源の発掘
 - ・各学校の「さとうみ学習」に係る相談
 - ・海洋教育バイオニアスクールプログラムに係る業務
- (2) 「さとうみ学習」におけるマリンアクティビティ体験に係る費用の確保

各学校におけるマリンアクティビティ体験に係る費用（1学年分の人数×2,500円）を「学校経営支援事業」に加算して配分予定
- (3) 各学校が国や民間財団等の研究助成金を確保することへの支援（令和6年度～令和8年度）

「公益財団法人 笹川平和財団主催 海洋教育バイオニアスクールプログラムにおける地域展開部門」に申請中
→指定校における「さとうみ学習」推進のための補助金として活用
※指定校は、令和8年度は8校で展開する予定